

平成29年度第5回総合教育会議 会議録（要点筆記）

日時：平成29年8月18日（金） 午前10時00分～午前11時30分

場所：（水俣市役所）仮庁舎2階 第1会議室

【水俣市総合教育会議出席者】

市長	西田 弘志
教育委員長	荒木 由紀子
委員長職務代理者	河田 奈保子
教育委員	山田 誠次
教育委員	堀 浄信
教育長	吉本 哲裕

【市長部局：事務局出席者】

総務課長	緒方 卓也
総務課 行政係	赤司 和弘
総務課 行政係	山内 要

【教育委員会：事務局出席者】

教育次長	藪 隆司
教育総務課長	坂本 禎一
生涯学習課長	柿本 英行
指導主事	中田 慎哉
教育総務課 総務係	小路 幹雄
教育総務課 総務係	牧 千世

【傍聴者】 無

1 開会 （司会進行：総務課 行政係 赤司）

・市長あいさつ

教育委員の皆様、本年度は第1回目となりますが、第5回総合教育会議にお集まりをいただき、ありがとうございます。ご意見を聞かせていただき、市の施策にリンクできればと思います。昨日は「子ども議員体験事業」が実施されましたが、子どもたちの視点で色々な意見があるのだなと感じたところです。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

2 議事 （市長が議長となり進行）

(1)協議・調整事項

テーマ「水俣市教育大綱を踏まえた今後の方向性について」

市長：それでは、今回のテーマは、「水俣市教育大綱を踏まえた今後の方向性について」となっております。

平成27年度に水俣市教育大綱を策定しましたが、市の総合計画は平成30年度に見直しとなります。併せて教育振興計画の策定も予定されていることから、その前段階として次期計画に盛り込むべきこと、不足している視点がないかなどについて大きく議論しておくことが必要ではないかと考え、今回のテーマとしました。

水俣市教育大綱も、改めて見直しができればと考えていますので、教育委員の皆様からご提言をいただければと思っております。

教育に関しては、「水俣環境アカデミア」の開設、そして水俣高校の支援に本格的に入ったことが挙げられます。私自身、水俣出身で水俣の小中高を卒業しましたが、水俣の子どもに自信を持ってもらいたいという思いが一番にあります。勉学・地域について誇りをもってもらいたい。水俣市は、環境の街・公害の街として知られておりますが、新たに水俣の違う側面を知ってほしいとの思いから、高校生と一緒に、「初恋のまちづくり」に取組み、新たな水俣のイメージづくりを行ってきました。子ども達が誇れる水俣をつくるためには、水俣のイメージづくりが重要と思いますし、水俣の子ども達により良い教育環境を与えることができるように、教育行政を進めて行きたいと考えています。

現在、他の地域の高校へ進学される方々もたくさんいますが、水俣高校が第一志望として選ばれる学校になってもらいたいと思っています。水俣高校はアカデミアと連携し、慶応大学など、色々な大学と協定を結び、SGH（スーパーグローバルハイスクール）として、国の指定を受けたことで、徐々に注目を受けるようになってきています。それに伴い周囲の水俣高校を見る目も変わってきています。これまでは小中学校と高校の連携がありませんでしたが、小中高連携のパイプを更に太くして、なるべく地元の子どもが地元の高校に進んで欲しいと思っています。

また、前回の会議で、水俣に特別支援学校をつくれないう話がありました。現時点では難しいのですが、センコーからの寄付金を利用して、芦北の支援学校に通う生徒のための通学バスを導入しております。

昨日の「子ども議員体験事業」の発表の中に、学校のクーラー設置について意見がありました。財源の問題がネックですが、今後重要な検討課題だと感じています。予算は、必要なのはつける、メリハリをつけることが必要だと考えています。

河田委員：水俣市の教育として、何らかの特徴を出す必要があると感じています。でもその特徴を何にすべきなのか。

予算の使い方として、水俣は財源がないので実施できないということを聞きますが、クーラ

一にしても、ICTにしても、水俣は遅れているような気がします。

水俣は人が良いといわれています。そんな水俣で不登校はゼロであって欲しいので、不登校ゼロにするための取組み強化に理解が欲しいと思います。

また、この前「水俣堂々」という冊子を作られましたが、あれは新しく掘り起こした地域資源のまとめだと思うので、それと学校教育を結びつけることができたかなと思います。

私は教育委員2期目の3年目も過ぎましたので、何か具体的な成果を残せないかと考えています。

市長：教育大綱について、見直しをしていくことにもなりますが、何か意見はありませんか。

河田委員：教育大綱に、水俣で特化した教育について記載するのもいいかなと思います。ただ、何に特化しているのかと考えると難しいですね。

市長：確かに何に特化すべきか、目標を立てないと難しいですね。

山田委員：「水俣環境アカデミア」及び水俣高校のSGH（スーパーグローバルスクール）の指定は、水俣の子どもが自信を持つきっかけづくりの機関として私も期待しています。ただ、アカデミアは、まだ情報発信不足ではないか。大学の先生方から高い評価を受けていますが、そこが市民に伝わっていない気がします。また小中高の連携は、他の市町村でも、市と市教育委員会が主導して、高校を巻き込んで連携を進めている所が多いと思います。

就学前の発達障害に関して、保育園等ではカバーできない子どももいます。そんな子どもについて、特別に支援できる方策が市長の権限でできないかと思っています。

教育大綱については、現在の大綱で網羅していると思います。ただ、次の総合計画では、ぜひ教育を市の政策の中心的位置に据えてほしいと思います。

教育の力によって、人づくり、水俣全体の力を上げてほしいと思います。先日、宮崎市で行われた「九州地区市町村教育委員研修大会」に参加してきましたが、その中で「キャリア教育」について紹介がありました。商工会議所の中に、「キャリア教育支援」のセンターができて、産業界と教育会がスクラムを組んで、街全体で子ども達を育てる意識が育ってきているとの話でした。街全体で優秀な人材を育て、自分たちの街で働いてもらう、長い目でみると大きなメリットになるとのことです。

市長：今まで水俣市は「環境の街」をまちづくりの柱にしていってまいりましたが、これからは「健康」や「教育」を加えても良いのではないかと。どこの自治体も移住定住の競争にしのぎを削っていますが、子どもを育てたいと思える街が一番強いのではないかと感じています。

中には移住の際の補助制度が充実しているところもありますが、財源がなくなると一過性のものになってしまいます。長い目で見ると、水俣に住むと良い教育が受けられるというのは、

とても魅力的なことだと思います。

堀委員：前回の会議録を確認して、総合教育会議において市長と意見交換する中で、具体案がでてきてないなという印象を持ちました。案があっても財源がないからとか、難しいといった議論で終わってしまっている気がします。

水俣市の教育として、4つの課題があると思います。

1つ目は不登校、不登校を減らすためには、色んなケースに対応できる社会資源を増やすことが必要です。

2つ目は貧困の格差です。これは福祉との関連がありますが、生まれながらの環境で将来の職業や専門教育が決まっている状況を打破する必要があります。現在シルバー人材センターが、光明童園でおさらい教室を開いておられ、とても助かっています。

3つ目は特別支援教育です。通学バスが導入されたことは、とても良かったと思います。

4つ目は地域のまちづくりの中では「教育」がとても大事です。子どもにお金をかけないと、長期的なまちづくりは難しいと思います。先程の高校との連携や「キャリア教育」が関連すると思います。

この中の何に一番力を注ぐか、具体的に話し合えればと。市長を交えて話し合うことで、この課題を一つでも解決できる具体的案を実現できないかと考えています。

市長：不登校については、子ども自立支援室がありますが、もっと人材の部分で配慮できないかということになりますか。

堀委員：はい。たとえば保護者と子どもと学校の間をコーディネートできるスクールソーシャルワーカーを配置する。他に、小規模校の校区を緩和して、一小のような大規模校になじめない子どもは、久木野小に通学しても良いというような扱いができないかと思います。

市長：貧困の格差が昔より大きくなっています。その辺をきちんとサポートすることが必要だと感じています。

堀委員：一昨年研修に行った豊後高田市では「寺子屋」という地域でのボランティア塾を開いていて、経済状態に関係なく塾を利用できました。

荒木委員長：総合教育会議が設置された意味を考えていただきたいと思います。水俣市教育委員会の所管は小中学校になりますので、高校をどうするべきかという意見は言えません。市長には、水俣市教育委員会と協議するにあたって、水俣の小中学校の子ども達の教育をこうしたいと、自分はこんなことをやりたいのだという思いを述べていただきたいと思います。

教育大綱については、まだ評価がなされていない中で、意見は言えないと思いますが。

市長：この総合教育会議は首長として、今まで以上に教育に思いをもってあたらなければいけないということから設置されたことは分かっております。

ただ、教育長の立場も尊重した中で進めていかなければと思っております。私は市長として市全体を見なければいけません。

荒木委員長：総合教育会議は決議機関ではないので、ここで出た意見を市の施策に生かしてもらいたいという思いがあります。ある程度の市長の教育への思いや夢について、教育長と首長との普段からのやりとりが必要だと思います。

河田委員：教育長と首長、お互いのやりたいことを、お互いがわかっている必要があると思います。

吉本教育長：確かに市長が公的な場で教育について発言できる総合教育会議が設置される以前は、教育行政は教育委員会という形であったと思います。

総合教育会議ができたことで、教育は市長の大きな施策の一つとして、そのイニシアチブに期待できるようになりました。

今後においては、課題を一つ一つ整理して解決していかなければと考えています。ただ、財政的な裏付けもあり、これまでに実現できてない事業も多く反省しているところです。

具体的な取り組みとしては、水俣の子ども達の基礎学力をしっかりと上げる必要があると思っています。シルバー人材センターが現在学習支援を実施していますが、有効に機能しているならば、全市的に展開できないかと考えております。指導者に関する人件費や、施設の使用料がかかりますが、市長にご理解いただければ是非実施したい。学校では、現在放課後補充教室をやっています。総合計画に学校・地域・家庭の連携による学力向上という記載がありますが、もっと具体的に進めたいと思います。

また不登校は、現在の学校と子ども自立支援室の努力だけではなかなか解消につながっていない現状もあり、そこに学校・家庭・子どもを結ぶ第3者としてのマンパワーが必要だと思っています。

また、エアコンですが、全教室にクーラーを設置するとなるとおよそ7億円が必要との試算が出ています。財政をやり繰りして水俣市の子ども達の教育環境を整えていきたいと思っています。

市長：この会議は、ご意見を頂き、半年後に何か実施するというような会議ではありません。

首長として大きな方針を決めるなど、ここで出た意見等は事務方で抑えて、当初予算作成時の参考にして、反映できればというイメージです。

荒木由紀子委員長：これまでの意見は、既に教育委員会の中で話し合ってきたことです。市長

に意見を伝えることにより、より実現の可能性につながり、市長の思いと重なればということを目指しています。これまで離れていた市長と教育委員会のパイプをつなげた状態になります。このパイプを太くしていければいいなと思っています。

市長：教育委員会事務局の方から、最近の教育行政について説明をお願いします。

坂本教育総務課長：本年度は幼保小中高連携に努めました。昨年からは市・水俣高校・国水研・水俣市教育委員会で連携をはじめ、今年はリーダー研修に水俣高校生にも来てもらいます。

また、小学校の英語を来年度から先行実施を考えていますが、プロジェクトチームで検討しており、小中高までの本市の英語に関する取組みを特色あるものにできないかと考えています。環境アカデミアにも関わっていただき、例えば小学生の英語の授業時間に、留学生に来てもらうことができないかと考えております。

河田委員：アカデミアと水俣高校生が連携して活躍しているとのことですが、そのことを小中学生に水俣高校生が伝えてほしいと思います。外へのアピールにもなると思います。

市長：昔と比べて、水俣高校に電車で通学してくる子が減ったと聞いています。

堀浄信委員：水俣高校の先生と話をする機会があったので、何が必要だと考えますかと尋ねたところ、寮がほしいと。阿久根や長島から何名か生徒が来ているそうですが、昔はあった寮や下宿がなく、困っているとのことでした。

市長：生涯学習の現状はどうですか。

柿本生涯学習課長：水俣に住んで良かったと思えるような生涯学習の機会が必要だと思います。

先日は「子ども議員体験事業」が実施されましたし、本日から人権教育の一環である「ヒューマンライツセミナー」を開講しております。

スポーツの方では小学校の部活動の社会体育化が決定しており、学校が担っていた部分を地域で担っていくことになります。

公民館の市民教室は、今年は30教室開講し、色々な学習機会を提供して、市民の方々の生きがいに繋がっております。

図書館は、創作童話ワークショップを展開し、子どもたちの感性をみがくアプローチをしております。

競り舟大会は、これまでのスポーツの側面と併せて、まちづくりや観光など教育の範疇を超えた取組みで盛り上げていく必要があると考えています。

また、ハード面では財源の問題がありますが、文化施設・スポーツ施設の老朽化が進んでお

り、整備についての検討が必要だと考えています。

市長：教育次長は、芦北町から赴任して来られましたが、水俣の教育をどう感じていますか。

藪教育次長：芦北高校は、町をあげて支援をしています。そのうち芦北高校も無くなるのではないかという危機感があるからだと思います。

小中学校でいうと、色々な面で水俣は充実していると思います。不登校の対応は、学校だけでは難しく、ＳＳＷに協力してもらうことで解決ができる点も多いと思います。例えば相良村は村でＳＳＷを雇用して週２回勤務してもらっています。ただ一番大きな問題として人材の確保です。

河田委員：子ども達に基礎学力をつけるには、「生きる力」をつけることが学力アップにつながると感じています。そのために小中学生はみなくなるバス代は無料にできないか。例えば夏休みに、郊外の小中学生は、自分たちでバスを乗り継いで図書館に行ったり、子ども達だけで地域を散策したりできるのではないのでしょうか。土曜授業の実施でスクールバスの調整に苦労する話を聞きますが、みなくなるバスを利用することで解決できないのでしょうか。

吉本教育長：小学校の部活動の社会体育化に伴い、活動施設まで、子ども達の移動手段として無料で利用できるといいですね。

緒方総務課長：みなくなるバスの所管は、総務課です。期間を区切る等色々やり方はあるかもしれませんが。今後の検討課題にさせていただきます。

山田委員：今回の会議で出た意見は、これまでの教育委員会の会議の中で、何度も話題となった案件も多かったが、市長や総務課長から初めて聞いた内容もあったと思います。月１回、もしくは２か月に１回でも教育長から首長に定期的に報告していただく機会をつくっていただきたいと思います。

また、先ほど教育をまちづくりと言い過ぎた感がありました。長い目でみると、人材育成、そして地域の活性化につながるものですが、あくまでも、教育は子ども達の幸せのためにするものであることを忘れてはいけないと思います。

中田指導主事：現在、学力向上・不登校の対策に力を入れて取り組んでいるところですが、学校現場は大変です。文科省の勤務時間の調査でも厳しい結果が出ています。教員が教育の仕事に専念できるような環境づくり、例えば人の配置等を考えて取り組んでいきたいと考えています。

また、「心ゆたかな人づくり」という点で、ふるさと水俣の良さをどうにか発信できないかと考えています。以前、差別発言等の問題がありましたが、資料集の作成や、公開授業等を通し

て、県内多くの方々に啓発できればと。資料集の中に英語でも発信できるような素材を入れていければと考えています。

特別支援教育関係で、周知啓発と相談機関はありますが、どうケアするか対応する医療療育機関の場所が少ないので、水俣に対応できる機関が増えればいいなと考えています。

市長：本日はありがとうございました。今後、教育委員会と私のパイプをもっと太くするために時間を取らないといけないなと改めて感じたところです。今回いただいた意見は、来年度の総合計画、教育振興計画を策定する際の参考にさせていただきたいと思います。

3 その他（総務課 行政係 赤司）

このあと、引き続き市長と教育委員の皆様とのランチミーティングになっております。
本日は、大変お疲れ様でした。

4 閉会